

ズバツと計算！酪農家向けの飼料設計支援プログラムを開発 ー最も低コストな飼料メニューと飼料作物の作付け計画を提案ー

- 酪農家向けに最も低コストな飼料メニューと飼料作物の作付け計画を同時に提案するプログラムを開発し、Google Colaboratory上で公開。
- Webブラウザ上で、目標乳量、頭数、購入飼料の単価、自給飼料の生産費と、ほ場面積等の条件をファイルでアップロードすると、飼料メニューなどを計算して、試算結果を表示。

研究機関：農研機構

酪農家向けに最も低コストな飼料メニューと飼料作物の作付け計画を同時に提案！

目標乳量、頭数、購入飼料の単価、自給飼料の生産費と、ほ場面積等の前提条件を記載したエクセルファイルをアップロード



プログラムを実行

<搾乳牛向けの試算例>

自給飼料	1頭当たり 給与量/日	飼料 メニュー
とうもろこし サイレージ	25.0 kg	
チモシー1番草	11.4 kg	
チモシー2番草	2.5 kg	
購入飼料		
圧ベン とうもろこし	5.5 kg	作付け 計画
大豆粕	3.1 kg	
1日1頭当たり飼料費	1,085 円	
飼料作物	作付面積	
青刈り とうもろこし	1805 a	
チモシー	2194 a	経営全体の 最安の飼料費
年間総飼料費	3,964 万円	

従来の飼料設計プログラム
にはない機能

飼料メニューだけでなく、飼料作物の作付け計画が提案され、搾乳牛以外の牛を含めた年間総飼料費まで試算できるので、酪農経営の見通しを立てやすくなりました。

搾乳牛に加え、新たに搾乳を休んでいる牛や成長期の牛も含めた試算ができます



導入により期待される効果

輸入飼料の価格が高止まりし、国産飼料の生産・利用の拡大が望まれる中、本プログラムの利用により、国産飼料を利用した新たな飼料設計や作付け計画の立案が容易になり、酪農家の経営安定に貢献。

連絡先 農研機構 北海道農業研究センター 研究推進部 研究推進室（広報チーム）

E-mail: cryoforum@ml.affrc.go.jp